

はじめに

環境問題の中で、地球温暖化が大きくクローズアップされてきています。2005年2月16日には京都議定書「地球温暖化を防止するための国際条約」が発行され、同年4月28日には「京都議定書目標達成計画」が閣議決定され、公表されています。この京都議定書目標達成計画におきまして、住宅の省エネ性能の向上が具体的な対策として掲げられ、「2008年度には新築住宅の省エネ基準（平成11年基準）の達成率を50%以上とする」対策評価指標が示されています。

こうした背景のもと、快適・健康・安全でかつ省エネで長持ちする、質の高い住居を実現するため、住宅の断熱施工は欠かすことができないものとなっています。

硬質ウレタンフォーム断熱材は、その優れた断熱性能が高く評価され、冷凍倉庫や冷凍・冷蔵機器など、高い断熱性能を要求される用途に導入され、その後、施工性の良さから、集合住宅や一般建築物の結露防止用途に広く使用されるようになりました。

近年は、住宅の高断熱化に伴い、住宅用断熱材として硬質ウレタンフォーム断熱材の需要が高まってきています。

しかし、正しい断熱施工が行われませんと、求める断熱性能が得られなかったり、結露の発生を招き、人と家の健康を害することになってしまいます。

本書は、この「硬質ウレタンフォーム断熱材」を正しく施工していただくため、構造別に施工例と注意点をとりまとめたものです。省エネルギー基準（平成11年基準）に基づいて、構造別、各地域別に対応できるように編集をしました。断熱工事や設計ににあたりましては、お手元においてご活用いただきますようお願い申し上げます。

平成18年11月

日本ウレタン工業協会

標準施工マニュアルの構成

タイトル	内容
I 基礎編	省エネルギー基準についての解説
II 材料編	硬質ウレタンフォーム断熱材の「施工マニュアル」〈各施工編〉に記載する材料について、取りまとめたものです。
III 木造軸組構造・充填編	硬質ウレタンフォーム保温板（以下保温板）ならび吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材（以下吹付け材）による充填断熱工法についてとりまとめたものです。
IV 木造軸組構造・外張り編	保温板による外張り断熱工法について取りまとめたものです。
V 木造枠組壁構造・充填編	保温板ならび吹付け材による充填断熱工法についてとりまとめたものです。
VI 木造枠組壁構造・外張り編	保温板による外張り断熱工法について取りまとめたものです。
VII 鉄筋コンクリート造編	鉄筋コンクリート造断熱工法について取りまとめたものです。